

第2期上里町まち・ひと・しごと

創生総合戦略評価シート

**【評価対象年度：令和6年度】**

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
基本的な方向	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体
雇用の創出することが、町の活力を生み出し町内産業の発展につながります。民間企業の誘致や既存企業の振興などにより、町内経済の活性化を図り、安定した雇用の確保に努めます。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値(R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
1	(1) 民間企業の誘致・活性化による雇用の創出						
	① 民間企業の誘致の推進 ア. 上里サービスエリア周辺地区及び児玉産業団地の活性化 イ. 新たな工業系土地利用の調査・研究 ウ. 新規立地企業に対する奨励金の交付	神流リバーサイドロードの整備率	80.7% (令和5年度)	100%	90%	90%	大きく達成
		児玉工業団地線の整備率	0%	100% (令和5年度完了)	100%	100%	大きく達成
		工業立地にかかる制度整備	工場立地地域準則条例制定 (令和2年度)	制度の活用 《進捗報告方法》 制度活用の状況報告	制度の活用 《進捗報告方法》 制度活用の状況報告	具体的な取組の内容 [令和6年度]で報告	ほぼ達成
		研究の進捗	—	《進捗報告方法》 埼玉県企業局等と連携した情報を収集等の活動報告	《進捗報告方法》 埼玉県企業局等と連携した情報を収集等の活動報告	具体的な取組の内容 [令和6年度]で報告	ほぼ達成
	上里町企業誘致条例に基づく新規誘致企業数	—	—	累計6社 (7年間の合計)	累計4社	累計3社	ほぼ達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
上里SA周辺地区活性化のためのアクセス道路整備		道路整備課	神流リバーサイドロードについて、工事(L=150m)発注を行い整備が完了した。				
民間企業誘致の促進		地域活力創造課	企業誘致の促進と賃貸による企業立地に対する支援が実施できるよう、令和4年4月に企業誘致条例施行規則の改正を行った。また、新規立地事業者に対して条例に基づく支援を行った。				
工業団地の活性化		地域活力創造課	企業誘致条例や工場立地地域準則条例、地域再生計画(埼玉県企業拠点強化促進計画)等、企業立地の優位性の周知に努め、企業誘致に向け情報収集やマッチングに努めた。				
新たな工業団地の整備		地域活力創造課	旧農工法地区、新たな産業団地等の検討のため、埼玉県企業局及び埼玉県産業基盤対策課への訪問を行った。産業立地需要に対応できるよう新たな産業団地の設置について研究を進めている。				
新規立地企業に対する奨励金の交付		地域活力創造課	新規立地企業を誘致するための優遇措置として、上里町企業誘致条例に基づき、新規立地企業に対し、施設奨励金、雇用促進奨励金、法人町民税奨励金、水道加入金奨励金を交付している。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
神流リバーサイドロードの整備は順調に進捗している。 民間企業の誘致については、誘致候補地の検討を行うとともに埼玉県企業局や企業立地課等関係機関との情報共有を図っている。令和2年度には工場立地地域準則条例を制定(緑地面積率等の緩和)し、工場立地に向けた制度の拡充を図った。	自己評価	神流リバーサイドロードの整備事業については、R7年度中開通を目指し、引き続き工事を実施する。 民間企業の誘致については、引き続き、情報収集やマッチングに努める。また、産業立地需要に対応できるよう新たな産業団地の設置について研究を進めるとともに、新たな誘致候補地について調整を図る。	施策の進捗は順調である。 今後も事業を継続し必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調			概ね順調		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
基本的な方向  近年、農業従事者の高齢化や新規就農者数の減少、休耕地の増加などが課題となっています。就農希望者に対する交付制度や技術伝授研修の実施、農地中間管理事業の推進による農地利用の効率化に取り組みます。	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
2	(2) 農業の担い手不足対策の推進	新規就農者数	10人	56人 (7年間の合計)	40人 (累計)	50人 (累計)	大きく達成
	① 新規就農者に対する支援						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
就農希望者への営農計画等の支援		農業振興課	新たに農業を始めようとする新規就農希望者に、営む農業の種別、将来の農業経営の構想、規模や生産方式に関する目標などを整理してもらい、埼玉県農業経営・就農支援センターと連携した就農計画作成の支援を行った。				
就農希望者への営農計画等の支援新規就農者に対する相談支援業務		農業振興課	自立経営を目指す新規就農希望者が確実に就農できるよう支援するため、本庄農林振興センター、農協、農業委員会等の関係機関と一体となって、知識・技術の習得、農地や販路の確保、資金等の相談に関する支援を行った。				
就農後の経営支援		農業振興課	持続可能な強い農業を実現するため、次世代を担う農業者の育成・確保に向けた取組を講じている。経営が不安定な就農直後の所得の確保や就農後の早期経営発展を支援するため、「新規就農総合支援事業(経営開始資金・経営発展支援事業)」を行い、令和6年度は5名が事業を利用し就農後の定着を図った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
就農相談のサポート体制が構築され、関係機関と連携した支援により、新規就農者が町の中心的経営体として活躍する姿も見られるようになっている。	自己評価	新規就農総合支援事業の適切な活用により次世代の担い手の確保を図るとともに、農林振興センター、農協、農業委員会と連携し、認定農業者等の包括的な経営支援を行う。	KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、更なる発展を目指す中で、農業委員会との連携を強化し、休耕地の削減に取り組むこと。併せて、収益性の高い農業の研究を進め、取り組みの質を向上させていくこと。	継続
	順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
基本的な方向	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体
近年、農業従事者の高齢化や新規就農者数の減少、休耕地の増加などが課題となっています。就農希望者に対する交付制度や技術伝授研修の実施、農地中間管理事業の推進による農地利用の効率化に取り組みます。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
3	(2) 農業の担い手不足対策の推進	【再掲】 新規就農者数	10人	56人 (7年間の合計)	40人 (累計)	50人 (累計)	大きく達成
	② 新たな担い手確保						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
新規就農者希望者に対する担い手育成の支援		農業振興課	農業の担い手を確保・育成するため、市町村、農協、農業委員会、県農林振興センター等の関係機関が一体となって「児玉地域担い手育成総合支援協議会」を組織し、技術研修・農地の確保・資金相談等を行う「児玉地域明日の担い手育成塾」を開催している。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
新規就農希望者が就農希望地で確実に就農できるよう、関係機関と連携したサポート体制を構築して支援を行っている。また、埼玉県農業大学校の就農相談会にて、就農希望学生へ就農に関する情報提供を関係機関と実施している。	自己評価	新規就農総合支援事業の適切な活用により次世代の担い手の確保を図るとともに、関係機関と連携し、認定農業者等の包括的な経営支援を行う。	⇒	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	順調			KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

### 数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体

### 基本的な方向

近年、農業従事者の高齢化や新規就農者数の減少、休耕地の増加などが課題となっています。就農希望者に対する交付制度や技術伝授研修の実施、農地中間管理事業の推進による農地利用の効率化に取り組みます。

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
4	(2) 農業の担い手不足対策の推進	農地中間管理事業対象実施面積	458ha	443ha (7年間の合計)	443ha	453ha	大きく達成
	③ 農地の集積・集約の推進						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
新規就農者希望者に対する担い手育成の支援		農業振興課	推進地区を中心に、担い手会議や地権者個別説明会を開催し、農業の効率化及び担い手の確保等のための集積・集約化の重要性について理解をいただいた。その後、地権者宅への戸別訪問により、集積・集約化に繋がった。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
推進地区とその他の地区を合わせて、令和6年11月及び令和7年3月に転貸開始により計画通り中間管理事業へ集積を増やし、農業経営の効率化を図った。	自己評価	令和7年度からは、転貸期間が満了となる地区が出てくるため、耕作者・所有者へ更新手続きの案内を行う。併せて、利用権制度の廃止により契約が終了する農地所有者に対して、中間管理事業への移行を推進するとともに集積・集約化を進める。	KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、更なる発展を目指す中で、農業委員会との連携を強化し、休耕地の削減に取り組むこと。併せて、収益性の高い農業の研究を進め、取り組みの質を向上させていくこと。	継続
	順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
基本的な方向	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体
近年、農業従事者の高齢化や新規就農者数の減少、休耕地の増加などが課題となっています。就農希望者に対する交付制度や技術伝授研修の実施、農地中間管理事業の推進による農地利用の効率化に取り組みます。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
5	(2) 農業の担い手不足対策の推進	スマート農業の支援制度についての周知	—	《進捗報告方法》 説明会の定期的な開催、利用があった場合の報告	《進捗報告方法》 説明会の定期的な開催、利用があった場合の報告	具体的な取組の内容 〔令和6年度〕で報告	ほぼ達成
	④ スマート農業の推進						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
スマート農業の情報発信(説明会の開催)		農業振興課	スマート農業についての研究、情報収集を行う。必要に応じて町内の農業者に対し情報提供を行った。				
町内の農業従事者のスマート農業への取組支援		農業振興課	スマート農業に関連する補助事業を利用したい農家に対して情報提供や手続きに関する支援を行った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
ドローンによる薬剤散布について法令等の確認を行い、農業者や実施事業者に対し指導を行った。また、スマート農業に関する補助制度の周知を行った。	自己評価	品質向上や環境保全、農業者の高齢化対策として作業の効率化や省力化による負担軽減、新規就農者支援等に向け経験や技術の補完など、状況に応じたスマート農業導入を推進する。このため、各種補助事業の利用を推進し、営農環境の整備を促進するとともに生産性の向上を図る。	⇒ 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調				
			本部評価		
			概ね順調		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
基本的な方向	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体
町の特徴を活かした農産物・加工品などの特産振興を進め、ブランド化によるイメージアップを狙うとともに、販路拡大と特産物の商品化に向けた取組を支援します。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
6	(3) 農業の6次産業化による「かみさとブランド」の確立	6次産業による開発数	0 (令和5年度)	2 (令和6~8年度の累計)	1 (累計)	1 (累計)	大きく達成
	① 特色を生かした6次産業化の推進						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
6次産業化の推進		地域活力創造課	梨の廃棄量削減と上里梨の新たな魅力創出を目的に、官民連携による6次化商品「上里梨リキュール」を開発・販売した。多数のメディアで採り上げられ、誘客に一役買った。また、「かみさとブランド」の認定審査を実施し、3品を「かみさとブランド」に認定した。				
6次産業化の推進		農業振興課	町の特徴を生かした新たな加工品の開発に向け、特産品の生産者の協力を得て、規格外品を活用することで「新たな価値」を持った魅力ある商品の開発につなげた。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
梨の加工について、菓子製品の開発に加え、酒造会社との連携により新たに梨のお酒(梨リキュール)を開発した。包括連携協定を行った日本薬科大学、平沼水産との連携による新たな特産品開発の追い風となっている。	自己評価	地域資源を活用し、上里農業の特色が発信できる加工品の開発と安定的供給に向け、検討を進める。その中で、通常は商品としない規格外品等についての利用も検討し、ロスの削減を行いながら新たな価値・魅力の創造も研究する。また、「かみさとブランド」の認定審査を毎年度継続的に実施し、認定品の販路拡大を支援する。	KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部の意見と同じ	継続
	順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

### 数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体
基本的な方向  自ら起業したいと考えている方や、地域でまちづくりにかかわっている人やかかわろうとする人に対し、経済的支援等を図ります。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
7	(4) 地域で活躍する人への支援	上里町企業者支援事業補助金利用者数	—	7件 (7年間の合計)	5件 (累計)	10件 (累計)	大きく達成
	① 創業支援の推進						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
創業支援事業計画に基づく創業支援		地域活力創造課	町内で起業する事業者に初期投資等の助成をすることで産業の振興及び活性化を図る。令和6年度実績4件。				
新規創業者拡大のための支援事業の周知		地域活力創造課	町内の新規創業者に向けて、支援事業の周知を引き続き実施している。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
令和元年度より上里町で創業する起業者の支援のため、上里町起業支援事業を開始。令和2年度には要綱を改正し、支援の範囲を広げている。また令和3年度には県産業振興公社を創業支援事業に位置付け、起業支援の充実を図った。R2創業支援実績3件、R4実績1件、R5実績2件、R6実績4件	自己評価	商工会等と連携し、創業支援事業計画に基づく支援を推進するなど起業支援事業の適切な運用を図り、町内で起業を目指す方に寄り添った支援を行う。	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	順調		KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

### 数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
基本的な方向	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体
自ら起業したいと考えている方や、地域でまちづくりにかかわっている人やかかわろうとする人に対し、経済的支援等を図ります。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
8	(4) 地域で活躍する人への支援	地域活性化起業者(企業人材派遣制度)の活用	—	《進捗報告方法》 活用状況の報告	《進捗報告方法》 活用状況の報告	具体的な取組の内容 〔令和6年度〕で報告	ほぼ達成
	② 地域おこし人材への支援						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
外部人材の活用		総合政策課	総務省の外部専門家(地域力創造アドバイザー)制度を活用し、観光振興分野の専門家を招へいた。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
地域活性化の取組に関する知見やノウハウを有する外部の専門家を招へいし、観光関係事業者へのセミナーや観光地域づくりのアドバイスをいただいた。	自己評価	令和7年度についても外部専門家(地域力創造アドバイザー)制度を活用し、外部人材を招へいする予定である。引き続き、外部人材の活用と、民間人材の強みを活かせる事業について検討を行い各担当課との調整を行う。	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
基本的な方向	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体
就業する意欲と能力がありながら現在就業が実現していない潜在的な人材の活用は、就業率の向上において重要なポイントとなります。潜在的な人材が多い女性及びシニア世代の働く機会を確保することで、安定した労働力の確保に取り組みます。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
9	(5) 働く機会の確保	就職相談者数	13人	56人 (7年間の合計)	40人 (累計)	47人 (累計)	大きく達成
	① 就職相談の実施						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
県やハローワークと連携した就職相談の実施		地域活力創造課	高校生を中心に、大学生・短大生やUターン・Iターンの地元就職希望者を対象とした北部地域合同企業説明会を開催した。				
女性の就労支援		地域活力創造課	ハローワークと連携し、相談の際には的確な情報提供を行っている。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
地域活力創造課内に相談窓口を設置し、求人情報の提供などを行っている。また、北部地域地方創生推進協議会就職支援事業部会では、高校生を中心に、大学生・短大生やUターン・Iターンの地元就職希望者を対象とした北部地域合同企業説明会を開催し、本地区への就職者の確保を行っている。	自己評価	求人情報の精査を行い、特に、再就職を希望する女性に対する的確な情報提供を行う。	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	順調		KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標1 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする

### 数値目標

町の主要産業である農業の後継者不足や、上里サービスエリア周辺地区整備など、産業に関わる課題に対し、早期に対策が必要とされています。こうした課題をクリアするために、農業においては、担い手の確保とともに高品質な農産物の安定生産を図っていくこと、また商工業においては、児玉工業団地等への企業誘致を進めるとともに、既存企業や新たな創業に対する支援にも取り組み、産業の活性化と雇用の創出を目指します。また、新たな企業の誘致のため、工業用地の確保に努めるとともに、誘致企業に対する優遇制度を活用していきます。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	民間事業所従業者数	12,071人 (平成28年度)	12,571人
	認定農業者数	121経営体 (平成30年度)	131経営体

#### 基本的な方向

就業する意欲と能力がありながら現在就業が実現していない潜在的な人材の活用は、就業率の向上において重要なポイントとなります。潜在的な人材が多い女性及びシニア世代の働く機会を確保することで、安定した労働力の確保に取り組みます。

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値	最終目標値(R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
10	(5) 働く機会の確保	シルバー人材センター登録者数	215人	245人	240人	260人	大きく達成
	② 元気な高齢者が活躍する場の充実						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
シルバー人材センターへの支援		高齢者いきいき課	シルバー人材センターが安定的に運営できるよう補助金を交付した。広報活動として町広報誌に「お仕事説明会」の記事を掲載した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
シルバー人材センター登録者数は目標を大幅に上回り、シルバー人材センターの勧誘活動も含め、健康で活動意欲のある高齢者への活躍の場として周知がさらに進んだ。	自己評価	シルバー人材センターによる高齢者の活躍する場や機会を拡充するため、広報等に努めて登録者の増加を引き続き支援する。補助金の交付により基盤強化に努める。	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	順調		KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度 令和6年度分

### 基本目標2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

数値目標

<p>本町の社会増減については、住民基本台帳からは近年は転入超過の傾向がみられるものの、国勢調査からは平成22年から平成27年にかけて転出超過となっています。男女別年代別で見ると、女性は10代後半から20代にかけての転出超過が多く、男性は、10代後半から30代前半までの転出超過が多くなっています。なお、令和2年の国勢調査では転入超過に転じていますが、男女別年代の移動状況は平成27年と変わっていない状況です。若年層の流出を止めることは、人口減少の抑制と同時に町の活気を維持することにもつながります。</p> <p>そのため、この若年層の転出超過を防ぎつつ、転入超過の流れをより確かなものにするために、まずは本町の魅力を情報発信し、全国的な知名度を上げる施策に取り組めます。そして神流川合戦など本町の歴史的資産を活用した観光事業等の推進により、実際に本町に来てもらう人を増やし、本町の良さを実感してもらう取組を進めます。</p> <p>さらに、転出超過となっている若年層を主なターゲットにして、UJターンを促すことにより、人口増加の流れを確かなものにしていきます。</p>	指標名	基準値	目標値
	年間観光入込客数	65,400人 (平成30年度)	1,100,000人
	25歳～39歳の転入超過数	年間34人 (平成30年度)	年間50人

基本的な方向

上里町の魅力をデジタル等様々な媒体を使って全国へ発信することで、知名度を上げ交流人口及び関係人口の増加を図っていきます。

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
11	(1) 町の魅力を全国へ情報発信						
	① 積極的なタウンプロモーションの展開 ア. デジタルを活用した情報発信の推進 イ. 「こむぎっち」による町のPR	ホームページ年間閲覧数	106,484件	420,000件	380,000件	390,008件	大きく達成
		SNS等登録者数	596人	6,500人	5,500人	4,745人	ほぼ達成
		広報紙閲覧アプリ登録者数	283人	1,800人	1,600人	1,819人	大きく達成
		こむぎっちデザイン新規使用申請件数	12件 (令和4年度)	17件	15件	16件	大きく達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
ホームページの利用促進		総務課	ホームページにCMS(コンテンツ・マネジメント・システム)を導入し、職員による作成・更新を容易に行えるようにしている。担当課で情報の更新頻度を高めて、最新の情報を提供できるよう努めている。				
プッシュ型の情報発信や新たな情報発信の推進		総務課	LINE(登録者数:4,659人)を活用し、89件の行政情報を発信した。デジタルサイネージを通じて、114件(月平均9.5件)の行政情報を発信した。				
こむぎっちの活用による町のPR事業の展開		総務課	各種イベント等への着ぐるみの貸出しやデザイン使用を推進し、町内外に向けて周知を行っている。グッズをワーブ上里とアグリパーク上里で委託販売している(令和6年度決算額:57,529円)。啓発品としてシール(3,000枚)を作成した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部		上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>ホームページの年間閲覧数(前年比109.33%)及びSNS等登録者数(前年比111.64%)は増加している。また、新たにデジタルサイネージを通じた情報発信等にも取り組んでいる。</p> <p>こむぎっちの着ぐるみの貸出しやデザイン使用を推進し、町内外に向けて周知を行っている。</p>	自己評価	<p>ホームページの更新頻度を高めるとともに、利用者目線で見やすいページ作成を目指す。</p> <p>担当課と連携して、SNS等を積極的に活用した情報発信に努める。</p> <p>こむぎっちを活用した町のPRについては、既存の取組みのほか、SNS等を活用していく。</p>	⇒	<p>今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		<p>本部の評価</p> <p>本部の意見と同じ</p>	継続
	概ね順調			概ね順調			

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

数値目標

<p>本町の社会増減については、住民基本台帳からは近年は転入超過の傾向がみられるものの、国勢調査からは平成22年から平成27年にかけて転出超過となっています。男女別年代別で見ると、女性は10代後半から20代にかけての転出超過が多く、男性は、10代後半から30代前半までの転出超過が多くなっています。なお、令和2年の国勢調査では転入超過に転じていますが、男女別年代の移動状況は平成27年と変わっていない状況です。若年層の流出を止めることは、人口減少の抑制と同時に町の活気を維持することにもつながります。</p> <p>そのため、この若年層の転出超過を防ぎつつ、転入超過の流れをより確かなものにするために、まずは本町の魅力を情報発信し、全国的な知名度を上げる施策に取り組めます。そして神流川合戦など本町の歴史的資産を活用した観光事業等の推進により、実際に本町に来てもらう人を増やし、本町の良さを実感してもらう取組を進めます。</p> <p>さらに、転出超過となっている若年層を主なターゲットにして、UJターンを促すことにより、人口増加の流れを確かなものにしていきます。</p>	指標名	基準値	目標値
			令和8年度
	年間観光入込客数	65,400人 (平成30年度)	1,100,000人
25歳～39歳の転入超過数	年間34人 (平成30年度)	年間50人	
<p>基本的な方向</p> <p>上里町の魅力をデジタル等様々な媒体を使って全国へ発信することで、知名度を上げ交流人口及び関係人口の増加を図っていきます。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
12	(1) 町の魅力を全国へ情報発信	ふるさと納税者数	—	4,000人	4,000人	2,443人	未達成
	② ふるさと納税制度を活用した特産物のPR						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
ふるさと納税制度を活用した町PRの推進		総合政策課	ふるさと納税返礼品の登録について、広報での募集や企業訪問、電話などにより勧奨を行った。また、ポータルサイトの充実を図り、寄附件数の増加に繋がるPRを推進した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>令和5年10月以降の国の基準を満たした返礼品を対象とした寄附額は、昨年度対比で約1.5倍に増加した。新規返礼品の発掘による品数、登録事業者の増加が寄附件数の増加にも繋がっていると考えられる。</p>	自己評価	<p>町のPRに資する新規返礼品の追加やふるさと納税サイトの利便性向上、現地決裁型ふるさと納税の導入検討など、更なる寄附件数増加による交流人口や関係人口の増加を図る。</p>	<p>KPIの達成には至らなかったが、納税者数及び新基準を対象とした寄附額は昨年度より増加している。新たな品目の発掘や登録事業者の増加により回復を見込んでいることから、引き続き取り組み、PRの工夫やサイトの利便性向上等を検討すること。なお、返礼品基準の見直しに伴い、実態にそったKPIの目標値を検討すること。</p>	<p>ふるさと納税返礼品については、町の魅力を高め多くの人に訪れてもらうことを目的として、地域ならではの体験型プログラムや地元の特産品を楽しめるお買い物周遊など、新しい返礼品の開拓に取り組むこと。</p>	継続
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

### 数値目標

<p>本町の社会増減については、住民基本台帳からは近年は転入超過の傾向がみられるものの、国勢調査からは平成22年から平成27年にかけて転出超過となっています。男女別年代別で見ると、女性は10代後半から20代にかけての転出超過が多く、男性は、10代後半から30代前半までの転出超過が多くなっています。なお、令和2年の国勢調査では転入超過に転じていますが、男女別年代の移動状況は平成27年と変わっていない状況です。若年層の流出を止めることは、人口減少の抑制と同時に町の活気を維持することにもつながります。そのため、この若年層の転出超過を防ぎつつ、転入超過の流れをより確かなものにするために、まずは本町の魅力を情報発信し、全国的な知名度を上げる施策に取り組みます。そして神流川合戦など本町の歴史的資産を活用した観光事業等の推進により、実際に本町に来てもらう人を増やし、本町の良さを実感してもらう取組を進めます。さらに、転出超過となっている若年層を主なターゲットにして、UIJターンを促すことにより、人口増加の流れを確実なものにしていきます。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	年間観光入込客数	65,400人 (平成30年度)	1,100,000人
	25歳～39歳の転入超過数	年間34人 (平成30年度)	年間50人
<b>基本的な方向</b>  上里サービスエリア周辺地区をはじめとする観光事業を推進し、交流人口や関係人口の増加を図ります。また、主要産業である農業や上里ゴルフ場などといった上里町が持つ「強み」を活かす観光を推進することで、観光客の増加や観光消費拡大を図ります。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
13	(2) 観光事業の推進による交流人口・関係人口の増加						
	① 上里サービスエリア周辺地区の整備	アグリパーク上里年間来客数	255,000人	350,000人	350,000人	296,475人	ほぼ達成
<b>主な取組</b>		<b>担当課名</b>	<b>具体的な取組の内容〔令和6年度〕</b>				
上里SA周辺地区整備事業の推進		総合政策課	上里サービスエリア周辺地区整備事業庁内連絡協議会により、各ゾーニングの進捗管理と、各担当課の連絡調整を行った。				
農業体験ゾーンにおける事業の実施		農業振興課	観光農園・体験農園計画区域(農業体験ゾーン)において、埼玉ひびきの農協に協力してもらい、田んぼオーナー事業を実施。R6年度の参加者は22名、24区画。また、若手農業者の協力を得て、町内園児を対象に、旬の野菜収穫体験事業も実施した。				
水辺ゾーンの整備		まちづくり推進課	水辺ゾーンの測量調査を行い河川内の利用可能な平地部や、水位上昇の影響を把握した。多角的な分析を行った結果、国交省のかわまちづくり事業と民間活力を活用した持続可能な運営計画を検討することとした。				
このはな芝生広場の活性化		地域活力創造課	令和5年7月1日に制定した「このはな芝生広場使用等に関する要綱」に基づき、このはな芝生広場の貸し出しを実施。令和6年度実績2件。「このはなマルシェ2024」及び「上里ウィンターフェスティバル2024」。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
SA周辺地区整備事業全体としては、庁内協議会を開催し進捗状況を共有している。農業体験ゾーンの「田んぼオーナー事業」(JA主催)については、県外からの参加者も多く、参加人数は毎年約20名以上で推移しており、事業は好評を博している。水辺ゾーンでは、河川内で実現可能性のある事業を研究し、庁内協議会への提案を行うこととしている。令和6年度の測量調査により活用可能エリアや実現可能性のある事業について取りまとめを行い庁内協議会への提案準備を行った。このはな芝生広場については、令和5年度から貸し出しを開始し、令和6年度は、2件の使用実績があった。	自己評価	農業体験ゾーンについては、町の内外を問わず町と農業の魅力を発信する「田んぼオーナー事業」の充実を図る。また、「野菜収穫体験事業」では、子どもたちに収穫体験を通じて、農業の素晴らしさや大切さの理解と併せ食育の促進を目指し、事業継続する。水辺ゾーンについては、令和6年度実施した測量成果等を踏まえ、整備方針を庁内協議会への提案、承認を受ける。埼玉県が進めるスーパーシティプロジェクトのガバメントピッチに参加し、民間活用を検討を進める。あわせて、かわまちづくり事業の採択にむけ高崎河川国道事務所との情報共有を図る。このはな芝生広場については、このはなパーク関連事業者と協力し、イベント及び貸し出し等のPR活動を通じて、周辺地区の活性化を図る。	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

数値目標

<p>本町の社会増減については、住民基本台帳からは近年は転入超過の傾向がみられるものの、国勢調査からは平成22年から平成27年にかけて転出超過となっています。男女別年代別で見ると、女性は10代後半から20代にかけての転出超過が多く、男性は、10代後半から30代前半までの転出超過が多くなっています。なお、令和2年の国勢調査では転入超過に転じていますが、男女別年代の移動状況は平成27年と変わっていない状況です。若年層の流出を止めることは、人口減少の抑制と同時に町の活気を維持することにもつながります。</p> <p>そのため、この若年層の転出超過を防ぎつつ、転入超過の流れをより確かなものにするために、まずは本町の魅力を情報発信し、全国的な知名度を上げる施策に取り組めます。そして神流川合戦など本町の歴史的資産を活用した観光事業等の推進により、実際に本町に来てもらう人を増やし、本町の良さを実感してもらう取組を進めます。</p> <p>さらに、転出超過となっている若年層を主なターゲットにして、UJターンを促すことにより、人口増加の流れを確かなものにしていきます。</p>	指標名	基準値	目標値	
				令和8年度
	年間観光入込客数	65,400人 (平成30年度)	1,100,000人	
25歳～39歳の転入超過数	年間34人 (平成30年度)	年間50人		

**基本的な方向**

上里サービスエリア周辺地区をはじめとする観光事業を推進し、交流人口や関係人口の増加を図ります。また、主要産業である農業や上里ゴルフ場などといった上里町が持つ「強み」を活かす観光を推進することで、観光客の増加や観光消費拡大を図ります。

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
14	(2) 観光事業の推進による交流人口・関係人口の増加	上里ゴルフ場年間利用者数	47,505人	48,875人	48,875人	49,992人	大きく達成
	② 上里ゴルフ場の活性化						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
上里ゴルフ場の活性化(イベント開催)		まちづくり推進課	新たなイベント等の可能性の検討するため町長と上里ゴルフ場支配人との懇談会及び担当者レベルの意見交換会を実施した。令和6年度はジュニア育成プランが特別実施され、町民感謝デーは令和7年度からの実施が計画されている。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>上里ゴルフ場の活性化に向け、イベント開催など、運営主体との連携を強化している。また安定経営を目的に用地取得を進めている。</p> <p>令和6年度は町と運営主体との意見交換の機会を創出し町広報誌への掲載や、町民還元事業等の検討(令和7年度実施見込)を行った。</p>	自己評価	<p>年間約5万人の来場を誇る上里ゴルフ場は町の観光資源であり、町民の貴重な財産。用地取得による安定化を図るとともに、運営主体による質の高い維持管理やイベント等の実施により来場者の維持に努める。あわせて、町民感謝デーやジュニア育成事業の充実を図り、町民から愛されるゴルフ場の実現を目指す。</p>	⇒	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調			<p>KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		

第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

基本目標2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

数値目標

<p>本町の社会増減については、住民基本台帳からは近年は転入超過の傾向がみられるものの、国勢調査からは平成22年から平成27年にかけて転出超過となっています。男女別年代別で見ると、女性は10代後半から20代にかけての転出超過が多く、男性は、10代後半から30代前半までの転出超過が多くなっています。なお、令和2年の国勢調査では転入超過に転じていますが、男女別年代の移動状況は平成27年と変わっていない状況です。若年層の流出を止めることは、人口減少の抑制と同時に町の活気を維持することにもつながります。そのため、この若年層の転出超過を防ぎつつ、転入超過の流れをより確かなものにするために、まずは本町の魅力を情報発信し、全国的な知名度を上げる施策に取り組みます。そして神流川合戦など本町の歴史的資産を活用した観光事業等の推進により、実際に本町に来てもらう人を増やし、本町の良さを実感してもらう取組を進めます。さらに、転出超過となっている若年層を主なターゲットにして、UIJターンを促すことにより、人口増加の流れを確実なものにしていきます。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	年間観光入込客数	65,400人 (平成30年度)	1,100,000人
	25歳～39歳の転入超過数	年間34人 (平成30年度)	年間50人
<p>基本的な方向</p> <p>上里サービスエリア周辺地区をはじめとする観光事業を推進し、交流人口や関係人口の増加を図ります。また、主要産業である農業や上里ゴルフ場などといった上里町が持つ「強み」を活かす観光を推進することで、観光客の増加や観光消費拡大を図ります。</p>			

具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
15	(2) 観光事業の推進による交流人口・関係人口の増加	新しいイベント創出の進捗	—	町の資源を活かしたイベントの開催 《進捗報告方法》 検討の進捗報告	町の資源を活かしたイベントの開催 《進捗報告方法》 検討の進捗報告	具体的な取組の内容 〔令和6年度〕で報告	ほぼ達成
	(3) まちの資源を活かしたイベントの開催						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
既存イベントの開催(文化芸術活動やマラソン大会等)		総合政策課	上里町総合文化センターにおいて、音楽・演劇・郷土芸能の鑑賞型イベント、和太鼓の体験教室などの参加型イベントを開催し、伝統芸能の継承に努めている。				
既存イベントの開催(文化芸術活動やマラソン大会等)		生涯学習課	乾武マラソン大会を実施した。				
町の資源を活かしたイベントの開催		地域活力創造課	このはな芝生広場を会場とした「このはなマルシェ2024」を10月に開催した。また人気コンテンツ「ピクリマン」を活用した町内周遊スタンプラリーを11月に開催した。				
歴史的資産の活用に関する団体や個人の育成		生涯学習課	有形及び無形文化財の管理者に対し、保存助成金の交付を実施した。また、修繕等の費用を一部補助する体制も整えている。町文化財保護審議委員会に向けた研修会を児玉郡市内の市町村と共同で3回実施した。				

KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等	今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>既存イベントについては、計画通り開催できている。マラソン大会は国道17号バイパス工事に伴い開催場所やコースの変更を検討・調整を行い、開催に至った。また、昨年度に引き続き「このはなマルシェ」を実施し、約1,500人の来場者があった。新たな事業として、上里町総合文化センターでは、18歳未満の子どもを対象とした子ども自慢大会や上里町の民話をもとにしたお化け屋敷を初開催し、模擬店やキッチンカーも出店した。また、町内周遊スタンプラリーを実施し、スタンプラリーには、1,849人が参加した。</p> <p>歴史資産では、コロナ禍によって活動実績が計上できず、助成金を交付できなかった団体が存在していたが、コロナ以前の状態に戻ってきたこともあり、令和5年度1団体であった助成団体が当該年度は4団体に増えた</p>	<p>既存事業については、効果的な広報活動やイベントの企画・運営を積極的に推進していく。なお、マラソン大会についてはバイパス開通後は交通量や車の流れが変わることも見込まれるため、開催場所や規模などを引き続き検討する必要がある。新たな事業としては、このはな芝生広場を利用したこのはなmarcheを継続的に開催できるよう、イベントの規模や実施方法を適宜見直ししていく。また、観光協会の設立に伴い、効果的な事業を適切な規模で検討、実施する。</p> <p>歴史的資産では、無形文化財活動が引き続き行われるよう、団体へのサポートを行うとともに、町指定文化財の周知も行き、町の魅力として注目されるよう取り組む</p>	<p>本部評価</p> <p>概ね順調</p>	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
<p>⇒ 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標2 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む

数値目標

<p>本町の社会増減については、住民基本台帳からは近年は転入超過の傾向がみられるものの、国勢調査からは平成22年から平成27年にかけて転出超過となっています。男女別年代別で見ると、女性は10代後半から20代にかけての転出超過が多く、男性は、10代後半から30代前半までの転出超過が多くなっています。なお、令和2年の国勢調査では転入超過に転じていますが、男女別年代の移動状況は平成27年と変わっていない状況です。若年層の流出を止めることは、人口減少の抑制と同時に町の活気を維持することにもつながります。</p> <p>そのため、この若年層の転出超過を防ぎつつ、転入超過の流れをより確かなものにするために、まずは本町の魅力を情報発信し、全国的な知名度を上げる施策に取り組みます。そして神流川合戦など本町の歴史的資産を活用した観光事業等の推進により、実際に本町に来てもらう人を増やし、本町の良さを実感してもらう取組を進めます。</p> <p>さらに、転出超過となっている若年層を主なターゲットにして、UIJターンを促すことにより、人口増加の流れを確かなものにしていきます。</p>	指標名	基準値	目標値
			令和8年度
	年間観光入込客数	65,400人 (平成30年度)	1,100,000人
25歳～39歳の転入超過数	年間34人 (平成30年度)	年間50人	

### 基本的な方向

20歳代から30歳代の年齢層が減少すると、本町の活力がいずれ失われ、町の様々な活動が成り立たなくなる可能性が高まります。そのため20歳代の若者を中心に、回帰あるいは新規に移住してもらえる施策を促進し、移住者を増加させることにより、本町の人口増加と活性化に結びつけます。

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
16	(3) 若者を中心としたUIJターンの促進						
	① 移住定住促進事業の展開	埼玉北移住ホームページ年間閲覧件数	8,854件 (令和2年度)	20,000件	20,000件	11,841件	未達成
		移住定住に繋がる事業の実施状況	—	《進捗報告方法》 検討の進捗報告	《進捗報告方法》 検討の進捗報告	具体的な取組の内容 〔令和6年度〕で報告	ほぼ達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
移住促進に繋がる情報の発信		総務課	町ホームページに移住定住に関する特設サイトを開設し、町の魅力や支援制度等の情報をまとめて紹介している。県北3市4町で組織している埼玉県北部地域地方創生推進協議会で運営している移住定住交流サイトで町の情報を発信した。				
北部地域連携事業(移住関連)への参加		総務課	埼玉県北部地域地方創生推進協議会で「ふるさと回帰フェア(東京国際フォーラムで開催)」に参加し、来場者にタブレット端末や観光パンフレット等を活用して上里町の魅力をPRした。				
移住定住に繋がる事業の検討		総合政策課	町ホームページや埼玉北移住ホームページ内に移住定住情報や写真を更新して、新たな情報発信を行った。また、県・市町村・民間事業者等がワンチームで移住・定住に取り組む「住むなら埼玉」官民連携協議会が設立され、協議会に参加し他市町村や民家事業者の取組事例等を共有した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
町ホームページに移住定住に関する特設サイトを開設し、町の魅力や支援制度等の情報をまとめて紹介している。県北3市4町で組織している埼玉県北部地域地方創生推進協議会で運営している移住定住交流サイトで町の情報を発信し、「ふるさと回帰フェア(東京開催)」に参加した。	自己評価	各課が取り組んでいる移住定住につながる施策について、町ホームページの特設サイトの情報を定期的に更新する。埼玉県北部地域地方創生推進協議会と連携し、移住定住を促進する取組を検討する(令和7年度は県+7市町で若者に向けPR動画を共同制作予定)。	KPIのうち「埼玉北移住ホームページ年間閲覧件数」については、未達成になっているが、施策全体の取組状況を鑑みると概ね順調である。引き続き、サイト内の情報の充実と利便向上を図るとともに、サイトそのもののPRの工夫を検討すること。なお、KPI「埼玉北移住ホームページ年間閲覧件数」については、実情にあった目標値の設定により正確な進捗管理に努めること。	「埼玉北移住ホームページ年間閲覧件数」については、上里町以外の市町と共同運営しているホームページの閲覧件数であることから、上里町の取組だけで数値をコントロールできる余地が少ないため、他のKPIへの変更も検討すること。	一部見直し
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

<p>本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったのち上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」、「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
<p>基本的な方向</p> <p>独身の男女が結婚していない理由として「出会う機会、きっかけがない」というアンケート結果を踏まえ、出会いの場の提供、相談や講座開催などを行い、出会いから結婚までの支援を実施します。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
17	(1) 出会いと婚活の支援	SAITAMA 出会いサポートセンターの上里町町民の登録者数	38人 (令和3年度)	81人 (R3~R8累計)	74人 (累計)	78人 (累計)	大きく達成
	① 出会い・婚活サポート事業の展開						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
独身男女の出会いの機会の創出(イベント開催支援)		総合政策課	令和5年度に引き続き、メタバース&リアル婚活を開催した。イベントは過去最高のマッチング率となり、盛況であった。また、SAITAMA出会いサポートセンターを通じた結婚相談等により、結婚を希望する人への支援を実施した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>県北7市町で構成する北部地域地方創生推進協議会の結婚支援事業部会で婚活イベントを実施し、北部地域在住者への結婚の希望を叶える場を提供した。また、広報かみさと等で県のSAITAMA出会いサポートセンターの情報の発信を行い、登録者数も順調に増加している。</p>	自己評価	<p>今後も引き続き、関係市町と協力し、魅力的なイベント開催や積極的な情報発信により事業展開をしていく。</p>	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	順調		<p>KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

<p>本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったのち上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」、「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
<p>基本的な方向</p> <p>妊娠や出産に悩む夫婦への支援を強化し、安心して子どもを産むことができる環境づくりを図ります。また、乳幼児の発育や発達に関する親の不安を解消するための各種支援を実施します。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
18	(2) 妊娠・出産・発育や発達の支援	不妊治療助成件数	29件 (平成28～30年度の平均)	59件 (7年間の合計)	55件 (累計)	52件 (累計)	ほぼ達成
	① 不妊治療等への支援						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
不妊治療等への支援(助成金等の支給)		健康保険課	不妊治療費助成事業では2件、早期不妊検査・不育症検査費助成事業では12件を助成。また、早期不妊検査・不育症検査は女性の年齢が35歳未満の方への上限金額を増額。不妊治療助成事業は、妊娠を希望される男女に平等に機会を持てただけよう保険適用外の部分に対する経済的支援を行った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
令和4年度から不妊治療が保険適用とならない43歳以上の方へ治療を要した費用の一部を助成。43歳未満の方に対しては、早期不妊検査・不育症検査にかかった費用の一部を助成し、妊娠を希望する男女に対する経済的支援を行った。	自己評価 順調	継続して妊娠を希望される方へ平等に経済的支援を行うため、保険適用外になる部分に対して不妊治療費助成、早期不妊検査・不育症検査費助成事業を行っていく。	⇒ 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部の意見と同じ	継続

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

<p>本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったのち上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」、「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
<p>基本的な方向</p> <p>妊娠や出産に悩む夫婦への支援を強化し、安心して子どもを産むことができる環境づくりを図ります。また、乳幼児の発育や発達に関する親の不安を解消するための各種支援を実施します。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
19	(2) 妊娠・出産・発育や発達の支援	妊婦歯科健診受診率	40.3%	45.0%	45.0%	33.70%	ほぼ達成
	② 妊婦の健康づくりの支援						
<p>主な取組</p> <p>妊婦の健康づくりへの支援(自己負担のない歯科健診の実施等)</p>		<p>担当課名</p> <p>健康保険課</p>	<p>具体的な取組の内容〔令和6年度〕</p> <p>母子手帳交付時に、妊娠期間中の歯周病は早産のリスクを高めることを説明し、群市内の歯医者で使用できる受診券を配布。妊娠8か月頃の方を対象としたプレママコールにて、未受診の方に対して受診勧奨を行った。また、広報やHPにて周知を行った。</p>				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>母子手帳交付時に行う個別の受診勧奨に加え、広報やHPでの周知を行う。また、妊娠8か月頃に実施しているプレママコールにて、歯科健診未受診の場合には受診勧奨を実施し受診率向上に努めた。令和2年度以降受診率は増加傾向にある。</p>	自己評価	<p>母子手帳交付時に行う個別の受診勧奨に加え、広報やHPでの周知を行う。また、妊娠8か月頃に実施しているプレママコールにて、歯科健診未受診の場合には受診勧奨を行い受診率の向上に努める。</p>	<p>今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

<p>本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったのち上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」、「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
<p>基本的な方向</p> <p>妊娠や出産に悩む夫婦への支援を強化し、安心して子どもを産むことができる環境づくりを図ります。また、乳幼児の発育や発達に関する親の不安を解消するための各種支援を実施します。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
20	(2) 妊娠・出産・発育や発達の支援	5歳児健康相談受診率	94.0%	減少を抑え現在の水準を維持	94.0%	94.80%	大きく達成
	③ 発育・発達への支援						
	新生児聴覚検査						
		子どもの発達支援巡回の回数	26回	180回 (7年間の合計)	130回 (累計)	127回 (累計)	ほぼ達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容(令和6年度)				
発育や発達に関する支援事業		健康保険課	乳幼児健診・各種相談事業を継続して実施し、子どもの発育・発達に対する支援を行った。健診等の未受診者には受診勧奨を行い、受診率向上に努めた。				
「産後ケア事業」の検討		健康保険課	ユニバーサルサービスであることを明確にし、母子健康手帳交付時や赤ちゃん訪問時等に本事業の周知を行った。また、所得制限のない利用料減免支援を活用し、訪問型産後ケアについては自己負担額をなしとした。利用者は実10人、延べ34回の支援を実施。				
子どもの発達障害等への支援事業の実施		子育て共生課	発達障害に関する専門的な知識を有する臨床心理士等が町内の保育所・幼稚園などを定期的に巡回(年3回程度)し、保育士等に対して子ども及び保護者への具体的な支援について助言・指導を行った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部		上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>5歳児健康相談は、軽度発達障害の早期発見・支援、及び就学に向けての相談を実施した。また、令和6年度より訪問型産後ケア事業を無償化。利用しやすい事業の運営に努め、利用者数・利用回数ともに増加した。子どもの発達障害等への支援事業については、町内全保育所・幼稚園・認定こども園で実施した。専門的な知識を有する者からの助言により、発達が気になる子どもへの早期支援につながっている。</p>	自己評価	<p>継続して、乳幼児健診等で子どもの発育・発達に関する支援を実施。また、未受診者に対しては受診勧奨を行い、受診率の向上に努める。産後ケアの事業内容を拡充。併せて利用が見込まれる事業所と契約を締結し、利用しやすい事業の運営に努め、安心して育児に臨めるよう支援していく。子どもの発達障害等への支援事業については、引き続き各施設に事業の目的や必要性を理解いただきながら、発達が気になる子どもへの早期支援を行うための指導・助言を継続実施していく。</p>	<p>上里町まち・ひと・しごと創生本部</p> <p>本部評価</p>	<p>今後事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>	
	概ね順調						概ね順調

第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったの上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。	指標名	基準値	目標値
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
基本的な方向 アンケート結果より、理想の子どもの数を持っていない理由として経済的な理由や心理的・肉体的負担、施設不足などがあげられており、子育て環境に改善の余地があります。負担の解消や環境整備などを行い、子育て世代のニーズに対応できるサービスを提供します。			

具体的施策と重要行政評価指標 (KPI)

No.	具体的施策	重要行政評価指標 (KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
21	(3) 子育てしやすい環境の整備	子育て支援ページの閲覧数	27,974件	45,000件	45,000件	43,687件	ほぼ達成
	① こむぎっ子子育てサポート事業の推進	保育所待機児童数	11人	0人	0人	5人	ほぼ達成
	ア. 子育てサポート情報	児童クラブ待機児童数	5人	0人	0人	0人	大きく達成
	イ. 働くババママサポート	地域子育て支援拠点利用者数	1,304人	2,830人	2,830人	2,500人	ほぼ達成
	ウ. 地域で子育てサポート	ファミリー・サポート・センター利用回数	390回	400回	400回	68回	未達成
	エ. 地域の子育て寛容サポート	のびっこ教室への参加者数	120人	減少を抑え現在の水準を維持	120人	88人	ほぼ達成
	オ. 子育て家計サポート	子ども食堂の設置数	—	5か所	5か所	3か所	未達成
	カ. いのちの大切さサポート	第3子以降の副食費無償化対象者数	59人 (令和5年度)	減少を抑え現在の水準を維持	59人	59人	大きく達成
		いのちの出前講座、講演会参加者数	291人	1,711人 (7年間の合計)	累計1,096人	累計999人	ほぼ達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容(令和6年度)				
子育て情報の発信		子育て共生課	ホームページを利用し、子育て世代への情報発信に努めた。また、保育、手当、給付金等の制度内容の周知も随時対応した。				
保育所や放課後児童クラブの待機児童解消の取組		子育て共生課	保育士や支援員の処遇改善を行い、職員の定着を図った。保育所等の入所について近隣市町との連携を図った。公共施設再配置・維持保全計画に基づき、児童クラブの小学校移転を進めた。				
地域子育て支援拠点の充実		子育て共生課	保護者が気軽に育児相談や他の子育て家庭との交流ができる環境の整備、情報提供を行った。ファミリーサポートセンター事業の運営を通じて援助を希望する人と支援する人の相互援助活動に対する支援を実施した。				
地域の子育て環境サポート事業		町民福祉課	社会福祉協議会と連携し、子ども食堂の周知・啓発に努めた。				
子育て世帯への家計サポート事業		子育て共生課	出産祝い金として1万円(第3子以降は3万円)と、埼玉県産木材を使用した出産祝品(3種類のうちから1つを選択)の支給を行った。また、第3子以降の副食費無償化を継続して行い、かつ新たに保育料の完全無償化を開始し、子育て家計のサポートを図った。				
いのちの大切さ出前講座や啓発活動		子育て共生課	町内の小学5年生を対象とし、助産師を講師としたいのちの大切さ出前講座を実施した。二十歳の集いにおいては啓発資料の配布を行った。				

KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等 妊娠・出産から思春期まで、切れ目のない支援を積極的にホームページ等で発信した。保育所等の入所においては、年度当初の待機児童は発生しなかったが、年度途中は待機児童が発生してしまった。ファミリーサポート事業は若い事の送迎で継続的な利用者はいるが、新規の利用者は少なかった。のびっこ教室については、児童数の減少に伴い参加人数は減少しているが、リピーター率は高く、半数以上がピーターとなっている。学校毎に特色を活かした活動を行っている。		今後の考え方(方向性) 保育料完全無償化の実施により、保育ニーズは増加傾向にあるため、需要と供給のバランスを図りつつ対応していく必要がある。 ファミリーサポート・緊急サポート事業は利用は少ないが、子育て環境の整備には必須であり、周知のうえ継続していく必要がある。 のびっこ教室については、放課後の子ども達の居場所づくりとして継続して開設する。児童数の減少や指導者の高齢化など課題解決に向けた取り組みを行う。	上里町まち・ひと・しごと創生本部 KPIのうち「ファミリー・サポートセンター」、「子ども食堂の設置数」については未達成になっているが、施策全体の取組状況を鑑みると概ね順調である。 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部評価 本部の意見と同じ 概ね順調	上里町地方創生推進審議会の意見 継続	取組方針 継続
--	--	--	---	--------------------------	-----------------------	------------

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

<p>本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったのち上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」、「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
<p>基本的な方向</p> <p>子育て世帯にとっては、居住地選択の基準として、子どもの教育環境や子どもを取り巻く安全で安心な地域社会をあげる傾向が見られます。そのため、子どもの教育環境をより充実させる施策に取り組みます。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
22	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援	全国学力学習状況調査において全国平均を100とした時の上里町の値(国語、算数・数学)	国語 90 算数・数学 85	国語 100 算数・数学 100	国語 100 算数・数学 100	国語 94 算数・数学 87	ほぼ達成
	① 確かな学力の向上	埼玉県学力学習状況調査の外国語表現力の県平均を100とした時の上里町の値	85 (令和2年度)	100	95	89	ほぼ達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容(令和6年度)				
教員の指導力向上につながる研修の実施		教育指導課	教師の指導力向上を目指す校内研修会を実施。(実施状況は各小中学校年5回)・小・中連絡協議会の実施と町内全教職員を対象とした教育講演会を実施。(連絡協議会:年3回/講演会は年1回)・上里町全教職員を対象とした、上里町学力向上授業研究会を開催した。(研究会実施状況は年1回)				
小中学校へのALTの派遣や小学校への理科支援員の配置		教育指導課	ALT(外国語指導助手)5名を全小中学校に配置することで、外国語教育を充実することができた。小学3年生から6年生を対象にした「英語でしゃべろう体験」を実施し、英語に慣れ親しみ、各校で学習した内容を活用することができた。				
ICTを活用した効果的な学習の展開		教育指導課	ICT支援員が各校を巡回し、ICTを活用した授業作りなどについて指導助言及び情報提供をすることができた。各校のICT担当を集めたICT推進委員会を開催し、ICTを活用した授業作りについて協議を深めた。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部		上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>全国学力学習状況調査では、全国を100として国語は94%、算数・数学は87%であった。また、埼玉県学力学習状況調査では、外国語の県平均を100として、実績値は89%であった。全国学力学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査ともに基準値からは向上しているが、算数・数学に関しては県との開きがある。</p>	自己評価	<p>最終目標値の達成を目指し、各校が実施する校内研修会の充実を図る。特に中学校の学力向上を目指し、学力向上推進委員会にて授業の良い取組を共有し、授業改善を図ることで、身に付けさせたい力を明確にした授業が展開できるようにする。また、ALTやICT支援員の更なる活用を図る。</p>	⇒	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	継続	
	概ね順調			概ね順調			

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### 数値目標

<p>本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったのち上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」、「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
<p>基本的な方向</p> <p>子育て世帯にとっては、居住地選択の基準として、子どもの教育環境や子どもを取り巻く安全で安心な地域社会をあげる傾向が見られます。そのため、子どもの教育環境をより充実させる施策に取り組みます。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
23	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援	新体力テスト(144種目)において県平均以上である種目数	39種目	80種目	73種目	85種目	大きく達成
	② 身体を動かすことが好きな児童生徒の育成と体力の向上						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容(令和6年度)				
小学校における児童の基礎体力の育成		教育指導課	トップアスリートで構成された体育実技指導員による体育授業の支援により、児童を運動好きにするとともに体力と運動技能の向上を図った。総計500時間、配置人数2名を学校規模により割り振った。外遊びを奨励し、運動好きな児童を育てている。				
中学校における生徒の基礎体力の育成		教育指導課	運動する生徒としない生徒の二極化が進んでいるため、授業内容を精選し、体育授業の中で思い切り体を動かせるよう授業内容を工夫した。部活動指導員を配置することで、専門的な指導が受けられる環境を整えた。配置人数6名。				
日本女子体育大学との包括連携協定による児童生徒の体力向上		教育指導課	日本女子体育大学との包括連携協定により、児童生徒の新体力テストの結果からその特徴や今後の課題、授業改善のポイントについて共通理解を図った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部		上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>新体力テストにおいて県平均以上である種目数は85種目であった。目標値と比較すると、118%であり、大きく上回った。体育実技指導員による体育授業の支援や小中学校教員の連携による授業改善大きな理由である。</p>	自己評価	<p>上里町の運動能力の苦手な分野を強化するために、日本女子体育大学と連携し、指導方法の改善を図る。また、体育実技指導員や部活動指導員の更なる活用し、体力を向上させる。授業では、運動の楽しさや魅力を味わわせ、生涯に渡って体を動かすことができる児童生徒を育てる。</p>	⇒	<p>KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	順調						

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

### 数値目標

<p>本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったのち上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」、「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
<p>基本的な方向</p> <p>子育て世帯にとっては、居住地選択の基準として、子どもの教育環境や子どもを取り巻く安全で安心な地域社会をあげる傾向が見られます。そのため、子どもの教育環境をより充実させる施策に取り組みます。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
24	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援 ③ 子どもの学びを支える環境づくり	学力アップ教室の実施回数	59回 (令和5年度)	減少を抑え現在の水準を維持	59回	58回	ほぼ達成
		上里っ子ジャンプ教室の実施回数(実施教室における平均)	18回 (令和5年度)	20回	18回	18回	大きく達成
		学校に行くことが楽しいと答えた児童生徒の割合	小6 87.8% 中3 85.6%	小6 90% 中3 90%	小6 90% 中3 90%	小6 87.4% 中3 83.3%	ほぼ達成
		1年間に30日以上欠席した不登校児童生徒数の割合	0.87% (令和2年度)	1%以下	1%以下	1.93%	未達成
		携帯型翻訳機の年間使用回数	—	200回	200回	200回	大きく達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
不登校対策・いじめ防止対策のための相談体制の構築		教育指導課	不登校対策や個に応じた学習・相談体制をつくるために、学習支援策として学習支援員(中学校)児童支援員(小学校)、教育相談機関としてさわやか相談員(中学校)・スクールカウンセラー(小・中学校)を配置している。				
不登校対策(「ふれあい教室」)の実施		教育指導課	教育支援センター「ふれあい教室」と連携を密にし、個別の支援体制の充実を図った。				
学力アップ教室と上里っ子ジャンプ教室の実施		教育指導課	学力アップ教室は、7月に開始し年間58回実施、40名の生徒の参加であった。上里っ子ジャンプ教室は5月に開始し年間36回実施、8名の児童の参加であった。				
外国語を使用する児童や保護者に対する支援(携帯型翻訳機の活用)		教育指導課	日本語での会話が難しい児童生徒に対して、指導の充実を図るために、日常的に携帯型翻訳機を活用した。保護者との面談でも、児童生徒の様子を詳細に伝えるため、活用した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
学力アップ教室、上里っ子ジャンプ教室ともに令和6年度目標値に対して実績値がほぼ100%であった。また、学校に行くことが楽しいと答えた児童生徒の割合が小中学校どちらも80%以上だったのに対し、1年間に30日以上欠席した不登校児童生徒数の割合は、令和5年度目標値に対して大きく超えている。	自己評価	令和7年度はこれまで上里っ子ジャンプ教室実施校であった七本木小学校、上里東小学校、神保原小学校に加え、賀美小学校でも教室を開設する。また、不登校児童生徒数を減少させるため、さわやか相談員、スクールカウンセラーの活用を図り、個に応じた支援・指導を実施する。	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	やや不調		KPIのうち「1年間に30日以上欠席した不登校児童生徒数の割合」については、未達成になっているが、施策全体の取組状況を鑑みると概ね順調である。不登校児童生徒については、今後の考え方で示した対応策を行い、より効果的な施策の進捗につながるよう努めること。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

数値目標

<p>本町の合計特殊出生率は、平成23年以降、全国平均及び埼玉県平均を大きく下回る状況が続いており、平成26年に過去最低の1.05となったの上昇しましたが、平成29年に再び1.05となっており、低下傾向にあります。このため、「結婚したい人が結婚できる」、「誰もが安心して出産・子育てができる」といった希望をかなえるための、結婚・出産・子育てに関する各種施策を充実させ、「子育てするなら上里町」と選ばれるまちを目指します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	合計特殊出生率	1.05 (平成29年)	1.25
<p>基本的な方向</p> <p>子育て世帯にとっては、居住地選択の基準として、子どもの教育環境や子どもを取り巻く安全で安心な地域社会をあげる傾向が見られます。そのため、子どもの教育環境をより充実させる施策に取り組みます。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
25	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援 ④ 郷土愛をはぐくみ、豊かな心を持つ人材の育成	小学校3年生・4年生の社会科における授業の実施状況	—	《進捗報告方法》 実施された授業時数と 内容の報告(小学校3 年生・4年生)	《進捗報告方法》 実施された授業時数 と内容の報告(小学校 3年生・4年生)	具体的な取組の内容 〔令和6年度〕で報告	大きく達成
	主な取組	担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
	町独自の教材「かみさと」を用いた学習	教育指導課	「かみさと」を活用することで、社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に活かそうとする態度を育成することができた。				
	小学校3、4年生の社会科における授業の実施状況	教育指導課	年間指導計画に則り、小学3年生70時間・小学4年生90時間を確実に実施することができた。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>「かみさと」を活用することで、上里の地形や土地の活用について具体的資料を通して理解を深めることができた。また、郷土の偉人について調べ、豊富な資料をもとに、自分の考えをまとめることができた。副読本の改訂にともない、教科書に記載されている資料や町の新たなことについて学習することができた。</p>	自己評価	<p>新しく改訂された副読本(かみさと)をもとに、今度も、郷土愛をはぐくみ、豊かな心を持つ子供達を育てていく。また、町の偉人についても自ら考えるようにさせていく。</p>	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	順調		<p>⇒ KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
基本的な方向	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%
<p>防災・防犯体制の充実や生活環境の整備を推進することで、地域住民の誰もが安心してらせる環境の整備に努めます。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
26	(1) 安全安心でくらしやすいまちづくり						
	① 災害に強いまちづくりの推進 ア. 地域防災計画の実践と地区防災計画策定支援 イ. 災害情報伝達手段の充実 ウ. 災害時における他自治体との連携強化の推進	地域防災計画に基づき実施される職員研修の実施回数	2回	14回 (7年間の合計)	2回 (累計10回)	2回 (累計10回)	大きく達成
		防災メール登録件数	2,851件	7,000件	6,000件	5,939件	ほぼ達成
		協定における支援状況	—	《進捗報告方法》 行った支援の報告(毎年度)	《進捗報告方法》 行った支援の報告(毎年度)	具体的な取組の内容〔令和6年度〕で報告	ほぼ達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
防災意識を向上させるための研修等の開催		くらし安全課	4月2日、新規採用職員を対象に、防災に関する講習を実施した。また、3月21日には、入庁3年目までの町職員を対象に「水防工法(講話、土のう作り)研修」を実施した。				
災害情報発信を充実させるための取組		くらし安全課	令和6年3月1日から運用を開始した「防災情報等架電サービス(でんくる)」について、広報かみさとやハザードマップへの掲載や防災講習会時での広報など周知に努めた。また、全国一斉情報伝達訓練時に試験運用を行った。				
協定自治体との連携事業の実施		くらし安全課	協定締結自治体及び企業と担当者名簿の更新を行う等、相互に連絡を取ることができる体制の確立に努めた。また、「上里町防災フェスティバル」において、協定締結企業等に出席していただいた。				
協定自治体との支援状況		くらし安全課	協定締結自治体に対し、相互に支援を要する事案はなかったが、災害が発生または発生する恐れがある場合には、相互に連絡を取ることができるよう連携強化に取り組んでいる。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>研修等では職員の防災意識高揚に一定の成果があったと考える。「防災情報等架電サービス」の導入により災害情報発信の充実が図られた。名簿等により相互に連絡を取ることができる体制を確認した。</p>	自己評価	<p>引き続き職員の防災意識の維持・向上を図る必要がある。継続して研修や訓練を実施する。「防災情報等架電サービス」について、真に必要な町民の利用に供するよう、周知に努める。「上里町防災フェスティバル」において、協定締結企業等に出席していただき、平時から交流を図るよう努める。</p>	<p>今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一人であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p> <p>基本的な方向</p> <p>防災・防犯体制の充実や生活環境の整備を推進することで、地域住民の誰もが安心してらせる環境の整備に努めます。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
27	(1) 安全安心でくらしやすいまちづくり	防犯パトロール隊数	30 隊	36 隊	30 隊	30 隊	大きく達成
	(2) 犯罪のないまちづくりの推進						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
警察署との連携強化		くらし安全課	警察官08を「安全安心まちづくり推進委員」として採用し、平日14時から18時まで、町内巡回パトロールを実施した。				
地域パトロール隊の活動支援		くらし安全課	92行政区全てに防犯のぼり旗を作成して配布した。そのほか、自主防犯パトロール隊の活動に係る費用に補助金を交付することで、活動の支援を行った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
犯罪を未然に防止し、犯罪を起こさせない環境を整備する取り組みとして、一定の効果があつたと考える。	自己評価	近年の巧妙化する特殊詐欺対策として、街頭啓発等、警察と連携した防犯対策を推進する。	⇒	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調			KPIが目標値に届いており、施策として効果があつた。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一人であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
基本的な方向	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%
<p>防災・防犯体制の充実や生活環境の整備を推進することで、地域住民の誰もが安心してらせる環境の整備に努めます。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
28	(1) 安全安心でくらしやすいまちづくり ③ 交通事故のないまちづくりの推進	交通人身事故発生件数	165件	81件以下	147件以下	60	大きく達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容(令和6年度)				
交通安全意識の啓発		くらし安全課	交通事故防止のため、各種啓発活動及び本庄警察署・道路管理者等と協議し、町道上等の交通安全施設の設置及び補修を実施した。交通安全教育として、本庄警察署及び交通指導員による町内小学校の児童を対象に、交通安全教室や自転車免許試験を実施した。また、町内保育園・幼稚園・こども園の年長を対象とした交通安全教室も実施した。				
国や県が実施する交通安全に関する助成制度等の周知		くらし安全課	広報かみさとや交通安全講習会等での説明、窓口等でのパンフレット配布により、交通安全に関する助成制度等について周知を行った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>交通事故(人身事故)件数は、令和5年12月末と令和6年12月末を比較すると、減少傾向にある。</p>	自己評価	<p>目標値は達成しているが、今後も、道路の新設時や交通安全施設の補修等を積極的にを行い、交通事故減少に対する取組を行う。</p>	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	順調		<p>⇒ KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p> <p>基本的な方向</p> <p>防災・防犯体制の充実や生活環境の整備を推進することで、地域住民の誰もが安心してらせる環境の整備に努めます。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
29	(1) 安全安心でくらしやすいまちづくり ④ 高齢者が住み慣れた地域で、安心してらせるまちづくりの推進	見守りキーホルダー登録者数	48人	153人 (7年間の累計)	123人 (累計)	160人 (累計)	大きく達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
「見守りキーホルダー」登録制度の普及活動		高齢者いきいき課	「高齢者向け福祉サービス」や「認知症安心ガイドブック」に掲載。広報にて定期的に制度を周知。窓口にてチラシを用いて周知。職員が窓口や訪問先で紹介し、申請に繋がるケースも多かった。警察、消防とも定期的に情報共有している。				
生活支援体制整備事業の推進		高齢者いきいき課	社会福祉協議会に委託して実施。小学校区ごとの地域支え合い活動組織立ち上げの支援を実施し、令和5年度に町内2地区目である神保原小学校地区での組織化を実施し、令和6年度より活動開始した。また、令和6年度より移動スーパーの運行を開始した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部		上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>生活支援体制整備事業は、地域支え合い活動組織が2ヶ所立ち上がっている。今後も地域支え合い活動組織の立ち上げ支援に取り組んでいく予定。「見守りキーホルダー」登録制度は普及活動により登録者数を伸ばし、目標値を達成している。</p>	自己評価	<p>生活支援体制整備事業は引き続き社会福祉協議会に委託し、地域支え合い活動の推進と移動スーパーをはじめとした地域資源の開発に取り組んでいく。「見守りキーホルダー」の広報掲載やケアマネへの周知、窓口や訪問先での紹介等を引き続き実施していく。</p>	⇒	<p>KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調				順調		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p> <p>基本的な方向</p> <p>防災・防犯体制の充実や生活環境の整備を推進することで、地域住民の誰もが安心してらせる環境の整備に努めます。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
30	(1) 安全安心でくらしやすいまちづくり ⑤ 空き家対策事業の推進	空き家等対策計画策定	—	空き家等対策計画の策定	空き家等対策計画の策定 《進捗報告方法》 計画策定の進捗報告	具体的な取組の内容 〔令和6年度〕で報告	ほぼ達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
空き家等対策計画の策定		くらし安全課	空き家の苦情を近隣住民より受け、現地を確認し、所有者に適正管理をするよう通知を行っている。				
空き家等対策計画の策定		まちづくり推進課	令和7年度の計画策定に向け、県内自治体の計画の分析、及び庁内関係課との調整を実施した。				
埼玉県北地域空き家バンクとの連携		くらし安全課	固定資産税の納税通知書にチラシを同封し、「埼玉北地域空き家バンク」の周知に努めた。結果として、空き家バンクには、2件の利用相談があった。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>上里町空き家等対策計画の策定に向け、令和6年度は庁内調整や必要な予算の検討など、具体的な取組を進めることが出来た。空き家バンクについては、納税通知書に同封することで、広く町内外の空き家所有者に空き家バンクを周知することができた。また、空き家所有者の悩みを解消するため、「空き家相談会」を開催する等、空き家解消に向けた取組みも行った。</p>	自己評価	<p>計画期間内での計画策定に向け事務を進める。令和7年度は庁内勉強会、施策の検討などにより骨子案の作成を進める。空き家バンクの在り方を検討する。また、令和7年度より運用を開始した空き家等総合相談窓口「akisol(アキソル)」の周知に努めるとともに、空き家対策等対策計画の策定に向けて関係課との連携を図る。</p>	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調		<p>⇒</p> <p>空き家バンクの周知や空き家相談会の実施、苦情への対応は行っている。また、空き家対策については引き続き取組み、計画策定に向けては関係課と連携を図り、作成を進めること。</p>		

第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

基本目標4 時代の変化に対応し、安心して暮らせる地域をつくる

数値目標

誰もが安全で安心して暮らせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一人であると感じられるまちであること、まちに活力があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。 そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICT が活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
基本的な方向	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合 (令和元年)	76.30%	80%
高齢者を中心に、すべての住民がより長く健康に過ごせるよう、健康づくりを促進する取組を進めています。			

具体的施策と重要行政評価指標 (KPI)

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
31	(2) 生涯を通じた健康づくりの支援						
	① 住民が主役の健康づくり活動の推進 ア. 高齢者の元気づくりの支援 イ. 「こむぎっち体操」等を活用した健康づくり ウ. 生涯スポーツの普及 エ. 健康づくりの場の整備	要介護等認定のうち軽度者の割合(事業対象者含む) ※軽度者は要介護1までの認定者	53.5%	57.6%	57.6%	50.52%	ほぼ達成
		こむぎっち ちよつくら健康体操の参加者数	402人	450人	432人	554人	大きく達成
		健康増進にかかわる体操を実施している事業所数	6事業所	16事業所	16事業所	15事業所	ほぼ達成
		スポーツ教室の年間参加者数	40人	120人	120人	126人	大きく達成
	公園施設長寿命化計画に基づいた遊具改築の実施	計画策定 (令和4年度)		63基	19基	20基	大きく達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容(令和6年度)				
	「こむぎっち ちよつくら健康体操」の普及促進	高齢者いきいき課	体操の継続支援として、各地区に出向きハビリ専門職による体力測定や健康講話を行い、体操を継続して取り組んでいけるよう支援を行った。継続支援の際には回覧版による周知を行い新たな参加者を募った。元気ちよつくらサポーター養成講座を開催し、新たなサポーターの育成を行った。				
	健康増進につながる健康体操の普及促進	生涯学習課	こむぎっち体操をスポーツ少年団イベント・レクリエーションフェスティバル等のイベント時に準備運動として行った。また、事業所に対して健康体操の実施取組の有無についてアンケートを実施した。				
	スポーツ教室等の実施	生涯学習課	ニュースポーツ体験としてモルックを実施したほか、健康ボウリング教室を行った。また、連携協定を結んでいる埼玉西武ライオンズによる野球体験教室を、七本木・上里東小学校で行った。				
	公園長寿命化計画の推進	まちづくり推進課	遊具更新工事を発注し、計画に基づいた遊具撤去・更新を行った。				

KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等	今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
「こむぎっち ちよつくら健康体操」の継続支援や新規参加者を増やす取組み、次世代のサポーターの育成を行った。回覧や広報やホームページを通じた介護予防の普及啓発を行った。 例年行っているスポーツ教室の実施の他、新たな取組として運動能力テストを実施した。 公園遊具については、令和6年度より上里町公園施設長寿命化計画に基づく遊具の更新に着手し、令和8年度完了に向けて進めている。	介護予防や地域のつながりを保つ取組みの検討及び展開を行っていく。また、多様な通いの場と連携・活用を図るなど、高齢者がより自分らしく健康に過ごせるよう取組みを推進していく。 年齢を問わず参加できるスポーツ教室の実施を継続していく。また、健康体操自体を行っていない事業所を中心に、こむぎっち体操やラジオ体操等の健康体操の普及促進を行い、町民の健康増進・体力向上に繋げていく。 令和7年度も継続して遊具更新工事をし、令和8年度完了を目指す。	本部評価 概ね順調	本部の意見と同じ	継続
	今後、事業を継続し、必要に応じて取組方法や工夫、更なる発展を目指すこと。			

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心で暮らしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
基本的な方向	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%
高齢者を中心に、すべての住民がより長く健康に過ごせるよう、健康づくりを促進する取組を進めていきます。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
32	(2) 生涯を通じた健康づくりの支援	「たまる健★幸マイレージ」参加者数	300人	2,200人	1,500人	2,068人	大きく達成
	② 健康意識向上への支援						
	ア. 高齢者の元気づくりの支援 イ. 特定健診・各種検診の推進						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
「たまる健★幸マイレージ」事業の普及促進		健康保険課	令和6年度は、対象事業ポイント付与の利便性を向上するため、オンライン申請を開始した。引き続き、健診会場等で未登録者に声掛けを行った。				
特定検診や各種検診の推進		健康保険課	がん検診は、令和6年度より50歳～68歳の偶数年齢の方を対象に胃部内視鏡検査(胃カメラ)を開始した。年齢やがん検診の種類を絞った受診勧奨や要精検者への受診勧奨も継続実施。歯周疾患検診は、対象者に広報等を通じて受診勧奨を実施。特定健診は、未受診者対策として、年2回の受診勧奨を行った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>登録済みの人からの口コミによる健★幸マイレージ新規登録者が増えている。健★幸マイレージ事業の登録者数増加と併せて各がん検診の受診者数も令和5年度に比べて微増した。特定健診は受診勧奨の成果により、前年度に比べ、健診受診率が伸びた。</p>	自己評価	<p>引き続き、健康意識の向上を促せるよう、周知や情報発信方法を工夫する。各種検(健)診受診率向上のための効果的な受診勧奨を実施する。</p>	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調		<p>⇒ KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一人であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p> <p>基本的な方向</p> <p>高齢者を中心に、すべての住民がより長く健康に過ごせるよう、健康づくりを促進する取組を進めていきます。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
33	(2) 生涯を通じた健康づくりの支援	緊急医療体制の整備状況	—	緊急医療体制の維持 《進捗報告方法》 体制整備にかかる事業 の報告	緊急医療体制の維持 《進捗報告方法》 体制整備にかかる事業 の報告	具体的な取組の内容 〔令和6年度〕で報告	ほぼ達成
	③ 緊急医療体制の整備						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
緊急医療体制の整備		健康保険課	休日急患診療所運営事業、在宅当番医制事業、病院群輪番制病院運営事業、二次救急支援事業、救命救急センター運営事業、小児救急支援事業等に対して、負担金及び補助金を拠出した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
町の1次救急(外来診療)、2次救急(入院治療)、3次救急(救命救急)を担う医師会及び医療機関に負担金等の拠出を行うことで、24時間、365日の緊急医療体制を確保できた。	自己評価	緊急医療体制を確保するため、1次救急から3次救急を担う医師会及び医療機関に対し、負担金等の拠出を継続して行う。	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
基本的な方向	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合 (令和元年)	76.30%	80%
<p>住民が孤立せず、一人ひとりが地域の一員であるという実感が持てることが生活の質を高めることとなります。防災の地域協力体制の構築を支援するとともに、地域でのふれあいの機会を充実させ、また地域を大切に思い愛着をもってもらえるような取組を実施します。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
34	(3) みんなで支え合う地域の絆づくり	自主防災組織モデル地区数	1地区	15地区	6地区	5地区	ほぼ達成
	① 「地域力」強化への支援						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
自主防災組織モデル地区の活動支援		くらし安全課	ふれあいサロンや行政区等、様々な機会を捉えて防災講習会を実施した。講習会では、ハザードマップの見方を説明し、自宅周辺のリスクを認識してもらい、パーティションを設置すること等を通して、災害を身近なものとして考えてもらうきっかけとなるよう努めた。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>自主防災組織数は増加していないものの、各地域等において防災講習会を実施することで、自助・共助の重要性を認識する機会を作ることに取り組んだ。また、実際に避難所開設を体験することで、防災に「我がこと意識」を持つてもらった機運の醸成を図ることができたと考える。</p>	自己評価	<p>自主防災組織モデル地区を増加させるため、自助・共助の重要性について、講習会等の機会を捉えて周知を継続していく。</p>	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調		<p>今後事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
<p>基本的な方向</p> <p>住民が孤立せず、一人ひとりが地域の一員であるという実感が持てることが生活の質を高めることとなります。防災の地域協力体制の構築を支援するとともに、地域でのふれあいの機会を充実させ、また地域を大切に思い愛着をもってもらえるような取組を実施します。</p>	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
35	(3) みんなで支え合う地域の絆づくり	地域の集まりの場団体数	17団体	25団体	23団体	22団体	ほぼ達成
	② 地域でふれあう機会の充実						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
住民が主体的に開催するサロン(地域の集まりの場)への活動支援		町民福祉課	地域の高齢者や住民等が気軽に集い、交流や健康増進の場を提供するふれあいサロンの設置を地域住民等に呼びかけて積極的に推進し、活動を支援した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>令和6年度については、宮本地区で1ヶ所、新規にサロンが開設した。 22サロンの内、18地区でサロン活動が実施された。</p>	自己評価	<p>⇒ 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調		<p>現在活動休止しているサロンについては、再開しているサロンの運営方法を情報提供し、実施に向けて支援する。また、新規サロン開設のための広報活動も引き続き行っていく。</p>		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
<p>基本的な方向</p> <p>住民が孤立せず、一人ひとりが地域の一員であるという実感が持てることが生活の質を高めることとなります。防災の地域協力体制の構築を支援するとともに、地域でのふれあいの機会を充実させ、また地域を大切に思い愛着をもってもらえるような取組を実施します。</p>	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
36	(3) みんなで支え合う地域の絆づくり	ふるさと学等受講者数	270人	2,940人 (7年間の合計) ふるさと学+行政を知ろう講座	2,100人 (累計)	2,367人 (累計)	大きく達成
	③ ふるさとを知り、地域を大切に作る機運の醸成						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容(令和6年度)				
住民を対象とした「ふるさと学講座」等の実施		生涯学習課	ふるさと学講座事業の実施				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)		上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
令和6年度事業は参加者延べ人数848人 《ふるさと学の主な事業》 ・(一財)上里町文化振興協会共催上里オパケヤシキフェス ・歴史教室 ・どんど焼きまつり	自己評価	引き続き、郷土に対する誇りや郷土を大切にする機運(郷土愛)の醸成を図る。そして、知識・技能の地域への還元により幅広い世代に向けた豊かな社会の構築や地域の絆づくりを推進していく。 講座の参加者数を増やすため各地区公民館を中心に周知と啓発を行う。	⇒	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調			KPIが目標値に届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
基本的な方向	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合 (令和元年)	76.30%	80%
<p>住民が孤立せず、一人ひとりが地域の一員であるという実感が持てることが生活の質を高めることとなります。防災の地域協力体制の構築を支援するとともに、地域でのふれあいの機会を充実させ、また地域を大切に思い愛着をもってもらえるような取組を実施します。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
37	(3) みんなで支え合う地域の絆づくり	文化事業の参加者数	15,500人	15,600人	15,600人	13,876人	ほぼ達成
	④ 社会的包摂を目指した文化事業の推進						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
積極的な文化事業の展開		総合政策課	上里町総合文化センターにおいて、音楽・演劇・郷土芸能の鑑賞型イベント、和太鼓の体験教室などの参加型イベントを開催し、伝統芸能の継承に努めている。また、上里民話をもとにしたお化け屋敷を初開催し、盛況であった。鑑賞型においては、日本フィルハーモニー交響楽団第九演奏会オンラインコンサートや誰でもシネマ鑑賞会等の新規イベントを開催した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>上里町総合文化センターにおいて、昨年度好評であった寄席等、18件開催した。参加者人数については令和5年度の13,685人から微増である。</p>	自己評価	<p>事業運営上での反省点の改善、一部応募者数の少なかったイベントの見直し等を図り、より利用者が楽しみながら地域文化に触れられるイベント企画・運営を図っていく。また、昨年度に引き続き、効果的な広報活動を推進していく。</p>	<p>⇒ 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	<p>本部の評価</p> <p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一人であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心で暮らしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
基本的な方向	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%
町内公共交通の整備、神保原駅周辺地域の整備、有効な土地活用など、誰もが住みやすくなるまちを目指し、各種都市基盤の整備を進めていきます。			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
38	(4) 誰もが住みやすい都市基盤の整備	町営公共交通年間利用者数	16,300人	22,300人	22,300人	19,465人	ほぼ達成
	① 最適な地域公共交通の整備						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
地域公共交通サービスの提供		総合政策課	アンケート調査や時刻表の見方や乗り継ぎが分からない方向けに『わたしの時刻表』の作成を行った。また、利便性の高い公共交通サービスの構築を目的として上里町地域公共交通計画策定し、令和7年度からの新たな公共交通形態の決定を行うとともに令和7年4月1日からの運行開始に伴う準備作業を実施した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>利用促進のための各種事業を実施した結果、前年度からこむぎっちゃん号の利用者数は増加し、過去最高値となった。また、上里町地域公共交通計画策定、令和7年4月からの新公共交通形態について協議・構築を行った。</p>	自己評価	<p>こむぎっちゃん号は、時刻表の見直し・日曜運行の開始・一部停留所の廃止等を実施し、利用者ニーズに合わせた形へ再編し、より一層の利用者獲得に努めていく。また、こむぎっちゃん号における北部・南部ルートへの廃止に伴う上里町デマンド交通の導入により、より利便性の高い地域公共交通を構築し、一層の利用者数増加を図る。</p>	本部評価	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調		<p>今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		

第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一員であると感じられるまちであること、まちに活力があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心で暮らしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p> <p>基本的な方向</p> <p>町内公共交通の整備、神保原駅周辺地域の整備、有効な土地活用など、誰もが住みやすくなるまちを目指し、各種都市基盤の整備を進めていきます。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%

具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
39	(4) 誰もが住みやすい都市基盤の整備						
	② 快適な住環境の整備 ア. 神保原駅周辺地域整備 イ. 道路の拡幅と雨水対	駅北整備計画策定	—	駅北口の都市計画決定 《進捗報告方法》 計画策定の進捗報告	駅北口の都市計画決定 《進捗報告方法》 計画策定の進捗報告	報告	ほぼ達成
		雨水対策	—	雨水対策計画の事業化 《進捗報告方法》 事業化の進捗報告	雨水対策計画の事業化 《進捗報告方法》 事業化の進捗報告	具体的な取組の内容 [令和6年度]で報告	ほぼ達成
		要望に対する道路整備件数	12件 (令和5年度)	10件以上	10件以上	17件	大きく達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容(令和6年度)				
駅周辺地域の整備		まちづくり推進課	神保原駅北まちづくり基本計画を基に、道路整備や駅機能の改善等についての検討を併せ、まちなかに賑わいを創出するためのマーケットを行った。				
道路の拡幅(安全な歩道確保)		道路整備課	藤木戸・勝場線は物件調査を発注し、用地買収を行った。三田中通り線については用地測量を発注した。				
道路の拡幅(安全な歩道確保)		まちづくり推進課	都市計画道路である古新田四ツ谷線について、交通安全対策の観点から歩道の設置と併せ、一部ルートを変更し、四ツ谷交差点へ接続させるための検討を行った後、地元説明会を実施し、都市計画変更にかかる埼玉県知事の同意を得た。				
雨水対策事業		上下水道課	七本木地内の元小山第一排水区を対象とした浸水対策検討業務委託を発注し、雨水貯留施設や雨水対策の方向性について検討を行った。また、上里町浸水対策検討委員会の開催と検討内容について本庄市と協議を行った。				

KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>まちづくり基本計画により、道路整備を検討する地域住民による会議や賑わい創出を検討するワークショップを開催し、まちづくりの推進に取り組んだ。また駅機能の改善に向けた関係機関との協議や駅周辺でのマーケットを5月と11月に開催した。道路舗装や側溝整備等の地元要望について整備を17件行った。道路拡幅については、藤木戸・勝場線及び三田中通り線については現地調査を実施し、古新田四ツ谷線は地元説明会を開催し、県知事の同意を得た。雨水対策事業では、浸水対策検討業務委託を発注し、上里町としての雨水対策の方向性は概ねまとまった。ただ、雨水対策には本庄市の同意が必要であることから、協議は継続して行う必要がある。事業化にあたっては、費用対効果の検証が必要であり、令和8年度の実施を予定している。</p>	自己評価	<p>都市再生整備計画によるハード整備や、賑わい創出に向けた官民連携のまちづくりを推進する。停車場線の道路拡幅等に向けた検討は継続して実施する。要望道路については引き続き整備を行っていく。藤木戸・勝場線及び三田中通り線については、用地買収及び工事に向けて準備を進める。古新田四ツ谷線については一部ルート変更について、令和7年度都市計画審議会に諮る予定。停車場線のクランク部分は県の事業化に伴い、町は地権者等への意向確認を進める。本庄市との協議を継続して行き、令和8年度以降費用対効果の検証や基本設計業務を行う。その後、下水道事業計画(雨水)の見直しを行う。</p>	本部評価	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調		<p>⇒ 今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>		

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度	令和6年度分
--------	--------

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心してらせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一人であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、ICTが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p> <p>基本的な方向</p> <p>町内公共交通の整備、神保原駅周辺地域の整備、有効な土地活用など、誰もが住みやすくなるまちを目指し、各種都市基盤の整備を進めていきます。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
40	(4) 誰もが住みやすい都市基盤の整備	立地適正化計画の推進	計画策定 (令和3年度)	立地適正化計画の推進 《進捗報告方法》 計画推進の進捗報告	立地適正化計画の推進 《進捗報告方法》 計画推進の進捗報告	具体的な取組の内容 [令和6年度]で報告	ほぼ達成
	③ 将来を見据えた土地利用計画の検討						
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
立地適正化計画の推進		まちづくり推進課	コンパクトで持続可能な都市構造の実現に向けて、神保原駅周辺の整備による賑わい・魅力の向上を図るため周辺道路やウォークアブルなまちづくりの検討を行った。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
令和4年1月に策定した立地適正化計画に位置付けられた、中心拠点である神保原駅周辺整備について、拠点性の向上を目指し、道路やウォークアブル空間等、地域住民等との会議により都市基盤の整備について検討を行った。	自己評価	神保原駅周辺整備を推進するため、居住誘導等に関する施策の実現に向けて、関係課や地域住民等との調整を図る。駅北東通り線は、道路整備や住宅、商業施設等の沿線開発の検討を進めていく。	今後も事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。	本部の意見と同じ	継続
	概ね順調				

## 第2期上里町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

評価対象年度 令和6年度分

### 基本目標4 時代の変化に対応し、安心して暮らせる地域をつくる

数値目標

<p>誰もが安全で安心して暮らせることや、健康に過ごせること、住民の一人ひとりが地域の一人であると感じられるまちであること、まちに活気があることなどは、人々がそのまちに住み続けたいと思う大きな理由となります。</p> <p>そのため、防災・防犯体制の充実などにより、安全安心でくらしやすいまちづくりを促進するとともに、健康づくりの支援と地域でふれあう機会の創出に努めるほか、どこにでも気兼ねなく出かけることができるよう公共交通の充実を図り、デジタルが活用され必要な情報を誰もが得られる、誰にとっても住みやすいまちづくりを推進します。</p>	指標名	基準値	目標値 令和8年度
	健康寿命	男性 82.96歳 女性 85.75歳 (平成29年度)	男性 83.11歳 女性 86.58歳
基本的な方向	町民満足度 「上里町に住み続けたい」人の割合	76.30% (令和元年)	80%
<p>住民の誰もが必要な行政情報にアクセスできるよう、住民向けのデジタルを活用したサービス、各種講座を充実させるとともに、公共施設の通信環境を整備し、平時にも災害時にも情報が確保できる安全安心なまちづくりを進めていきます。</p>			

### 具体的施策と重要行政評価指標〔KPI〕

No.	具体的施策	重要行政評価指標(KPI)	基準値 (平成30年度)	最終目標値 (R8)	年次(R6)目標値	実績値	達成度
41	(5) デジタルを活用した住民サービスの向上と安全安心のまちづくり						
	① デジタルを活用した住民サービスの向上と安全安心のまちづくり ア. 身近で住民目線に立った「行政サービス」の拡充 イ. 安全安心でくらしやすい地域社会の構築	オンライン申請可能な対象手続き数	80手続き (令和5年度)	120手続き	90手続き	142手続き	大きく達成
		【再掲】 SNS等登録者数	4,250 (令和5年度)	6,500人	5,500人	4,745人	ほぼ達成
		デジタル活用支援講座参加者数	90人	550人 (累計)	550人 (累計)	501人 (累計)	ほぼ達成
		指定避難所における公共Wi-Fiスポットの整備率	77.77%	100%	83.33%	77.77%	ほぼ達成
主な取組		担当課名	具体的な取組の内容〔令和6年度〕				
デジタルを活用した住民目線の行政サービスの拡充		総合政策課	住民がより使いやすいオンライン申請サービスについて本格運用したことで、行政手続きを簡素化し利便性の向上が図られた。また、マイナンバーカードによる図書館利用者カード利用の環境整備を行った。				
デジタルを活用した住民目線の行政サービスの拡充		生涯学習課	高齢者向けスマホ講座を実施した。				
上里町DX推進計画の推進		総合政策課	町のDX推進にあたり、令和4年度までに決定した推進体制、ビジョン、工程表等の全体方針を踏まえた「上里町DX推進計画」に基づき、全課全庁的な推進体制により、各種DX施策の実行フェーズへ移行している。庶務事務や文書管理のデジタル化、標準準拠システムへの移行準備を行った。				
公共施設への通信手段の整備		総合政策課	指定避難所18施設のうち14施設について公衆フリーWi-Fi環境を導入し(小中学校は教育委員会が導入)、学習やコミュニティ活動の他、災害時の情報通信手段に活用されている。施設の改修等に合わせるため令和6年度は実施を見送っているが、全ての指定避難所の導入に向け取り組んでいる。また、これまでに指定避難所以外の4施設にも導入した。				

### KPIや具体的施策の進捗を踏まえた施策全体の自己評価

施策の進捗状況等		今後の考え方(方向性)	上里町まち・ひと・しごと創生本部	上里町地方創生推進審議会の意見	取組方針
<p>オンライン申請の本格運用やマイナンバーカードを利用した図書館カード利用等の環境整備により住民サービスの利便性の向上が図られた。また、DX推進計画に基づいた各種施策を実施することで、より効果的かつ効率的な自治体DXが進められている。デジタル活用支援講座として、携帯会社による出張講座の開催を行い、計76人の参加があった。</p>	自己評価	<p>上里町DX推進計画により、デジタル技術を活用した各種施策を推進することで、業務環境や住民サービスの質の向上が図られる。一方で、デジタル化に取り残され不便になる住民が生まれず、誰でもデジタルが活用できるようにするため、職員の支援が求められる。携帯会社による出張講座が取り止めになる可能性が高いため、今後公民館にて実施することが難しくなってしまうが、可能な限り実施していく予定。</p>	<p>今後事業を継続し、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指すこと。</p>	<p>本部の意見と同じ</p>	<p>継続</p>
	概ね順調				